

作詞者

作詩者チャリティ・リース・バンクロフト(スミスとも記される、1841.6.21 ~ 1923.6.20)は、アイルランドのダブリン近郊で、アイルランド教会の牧師ジョージ・シドニー・スミスとシャーロット・リースの間に生まれました。

アイルランド教会は、アイルランド島内ではローマカトリック教会に次いで 2 番目に大きなキリスト教の教会です。他の英国国教会と同様、宗教改革以前の慣習、特に司教制の政治体制を保持し、信仰と実践の継続的な伝統の継承者としては“カトリック”ですが、ローマの権威を拒否し宗教改革によって回復された福音(の教義)と典礼の変更を受け入れることからプロテスタント教会です。

この歴史があったからこそ、この讃美歌が誕生したと言っても過言ではありません。

「御前に立つとき」が辿った道

□ 出典：<https://www.hymnologyarchive.com/before-the-throne-of-god-above>

- 1863 年、ロンドンで出版された『The Praise of Jesus』に、「ヴェールの中で(*1)イエスとともに」の見出しで、4 行 6 節で構成された歌詞のみが収録されました(右図)。 *1 ヘブル 6:17 参照
- 1865 年、ニューヨークで、同名の讃美歌集に収録されて紹介されました。
- 1866 年、C.H スポルジョン(1834 年 6 月 19 日-1892 年 1 月 31 日)が編纂した讃美歌集『Our Own Hymn-Book』に、「イエスは私のために嘆願する」の見出し、4 行 6 節の歌詞のみで収録されました。
- 1867 年、この讃美歌はスミス自身の詩集『ヴェールの中で、その他の聖なる詩』に、「ヴェールの中で、ヘブル 6 章 19、20 節」の見出し付きで収録されました。チャリティは詩集の序文でこう祝福しています。

これらの聖句(※資料3参照)が人々の心に響き、特に試練の時に救い主の同情と父の愛を思い出させ、助けとなりますように。これらの聖句が、優しさだけでなく知恵をもって、送られた懲らしめを謙虚に忍耐強く受け止める助けとなりますように。私たちはまだ「安息と相続財産」に到達していません。しかし神よ、感謝します、私たちはすぐに両方を享受するからです。

- 1891 年 12 月 31 日と 1892 年 1 月 1 日、スポルジョンは最後の礼拝説教で次のように語りました。

私は 40 年以上も十字架のキリストを宣べ伝え、多くの人を主の足元に導いてきましたが、今この瞬間、私の主イエスが罪深い人々の為にして下さったこと以外に、希望の光はありません。

そこに彼を見よ！血を流す小羊！

私の完全で汚れのない義、

偉大で不変の「私はある」、

栄光と恵みの王。

140 THE PRAISE OF JESUS.
170 WITHIN THE VAIL WITH JESUS.
BEFORE the throne of God above
I have a strong, a perfect plea;
A great High Priest, whose name is Love,
Who ever lives and pleads for me.
My name is graven on His hands,
My name is written on His heart;
I know that, while in heaven He stands,
No tongue can bid me thence depart.
When Satan tempts me to despair,
And tells me of the guilt within,
Upward I look, and see Him there
Who made an end of all my sin.
Because the sinless Saviour died,
My sinful soul is counted free;
For God, the Just, is satisfied
To look on Him, and pardon me.
Behold Him there! the bleeding Lamb!
My perfect, spotless Righteousness,
The great unchangeable "I AM,"
The King of glory and of grace.
One with Himself, I cannot die,
My soul is purchased by His blood;
My life is hid with Christ on high,
With Christ, my Saviour and my God.

- ・ 19 世紀末から凡そ 100 年間、残念なことに「神の御座の前に」は、チャリティの歌詞に相応しいオリジナルメロディーを書いた人がおらず、この歌詞は長い間他の様々な旋律で歌われ比較的無名でした。
- ・ 1997 年、ソブリン グレイス ミュージックに所属する作曲家、ヴィッキー クック (Vikki Cook、1960-) による力強い曲で一躍広く知られるようになりました。

□ ピアノ伴奏・後奏付き楽譜 (全 10 頁) 注:このリンクは、カット&ペーストしてお使い下さい

https://sovereigngracemusic.com/wp-content/uploads/before_the_throne_of_god_above-CCL-c-score.pdf

ヴィッキーは、チャリティの詩から衝撃を受けて作曲に至った経緯を次のように語っています。

私が初めて「神の御座の前に」を聴いたのは、1997 年のことでした。私たちの牧師の一人がイギリスでの会議から戻ったばかりで、この歌を持って帰ってきたのです。私たち礼拝チーム全員が教会の前にこの歌を習い、練習し、その日の朝遅くに会衆に教えました。この歌は大失敗でした。教会はこの歌に好意的な反応を示しませんでした。古いメロディーは私たちアメリカ人の耳には少し奇妙に聞こえたと思います。この曲は[ヒューバート・パリーの] JERUSALEM というメロディーでしたが、この歌詞にはあまり合っておらず、伝えられている真理を強調するにはまったく役立ちませんでした。私もメロディーはあまり好きではありませんでしたが、歌詞には惚れ込んでしまいました。

オリジナルの歌詞は私に大きな衝撃を与えました。今までこの賛美歌を聞いたことなどなかったなんて信じられませんでした。私は歌詞のコピーを家に持ち帰り、聖書に挟みました。静かな時間には歌詞を取り出して、特に 2 節の「サタンが私を誘惑して絶望させ、私の心の罪悪感を告げるとき、私は上を見上げて、そこに私のすべての罪を終わらせた神を見る」に心を動かされました。私はその歌詞を思いながら、神とともに何度も朝を過ごしました。たとえ自分のためだけだとしても、私はこれらの言葉を神に歌う方法を見つけなければなりませんでした。...

□ 出典: <https://www.hymnologyarchive.com/before-the-throne-of-god-above> の自動翻訳結果を編集

- ・ 1997 年、ヴィッキーの曲はアルバム「Depth of Mercy」に初めて録音され、1999 年、讃美歌集「Sing Glory」と「Complete Mission Praise」にも収録後、多くの歌手がこの讃美歌を録音しました。そして、ソブリン グレイス ミュージックと録音した Keith & Kristyn Getty のバージョンにより、この歌はさらに有名になりました。なお、ヴィッキーが 2003 年に追加した歌詞はあまり知られておらず、今回の資料に含まれません。

- ・ 2004 年、CD「Hiding Place : Selah」収録 (USA オリジナル盤発売)

□ <https://www.youtube.com/watch?v=0ZDzcMNJ-vY>

- ・ 2006 年前後の出来事を、本集会の讃美歌選曲者 Y.M 姉が回顧して 寄稿して下さいました。

私が精神的に大打撃を受けたことがあります。そのショックで強度の clinical depression となり聖書を含めて、全く文字が読めなくなり、自分が書いた論文でさえ理解できなくなった時、ただ彼らの讃美歌だけを聞くことができました。一カ月以上、毎日何度も賛美を聞き続けながら回復して行った時に聴いていた Selah の二枚のアルバムの一つ Hiding Place の中に入っていたのが、この曲です。

- ・ 2012 年、教会福音讃美歌 316 番「御前に立つとき」、訳詞: 土井康司、いのちのことば社より出版さる。

以上